令和２年度　栃木市教育研究所　研究所員研修会　研究記録カード

１　部会名	学びに向かう学級づくり　　部　会		
２　研究員所員 ◆：代表者	◆山田　卓志（吹上中） ・椿　拓也（大宮北小） ・仲井　紗耶華（国府北小）	・竹澤　萌（藤岡小） ・堀江　英里（東陽中）	事務所員 ・藤間　亮子 ・髙岩　香純 ・福地　達也

３　研究テーマ

子どもの多様性を生かし、安心して学びに向かう学級づくりを目指した実践研究

４　研究の取組

（１）研究内容

〇「新しい生活様式」の中で、良好な人間関係を構築するための実践

〇児童生徒同士が安心して意見を伝え合い、認め合える授業の実践

（２）研究計画

月　日	研修内容	月　日	研修内容
8月12日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月9日	１年間の振り返り 次年度の構想
10月2日	研究内容に沿った授業実践を持ち寄り成果を発表する。		
12月1日	授業研究会 （ビデオリフレクション） ☆竹澤先生の授業（3年生、道徳）	2月19日	２年次経過報告提出

５　研究の成果と課題

【成果】

・各学校で実践した「新しい生活様式」の中で「子ども同士をつなげる」取組を持ち寄り共有したことで、子　ども同士がつながるためには、「互いのよいところを見つけること」と、「伝え合うこと」が大切という共通点が見えた。前年度は、「話すこと」と「スキンシップ（触れ合う）」に特化した取組が多かったが、コロナ禍で接触が制限されたことで、子ども同士の良好なつながりを築くための取組にさらなる工夫が見られた。

・小学３年生の道徳の授業研究会では、「所属感」「参画意識」という言葉がキーワードとなった。学校生活において、自分のクラスに居場所があるという意識、自分はクラスの役に立っているという意識を子どもたちがもつことで、安心して話せるクラスの雰囲気が生まれるのではないかと話し合った。今回の授業では、子ども同士が対面で話合いを行えなくても、教師が児童と児童の意見をつなぐことで、学級での話合いが成立しており、子どもたちは安心して発言できていた。普段からの子ども同士をつなぐ取組や、授業での教師のコーディネート力が安心して自由に意見が言える環境を作るのではないかと考察することができた。

【課題】

・今後も、「新しい生活様式」の中で学校生活を送ることが予想される。「新しい生活様式」の学校生活において、教師と子どもがつながり、子どもと子どもをつなぐ取組についてのより多くの事例が必要である。

６　さらに研究していきたいこと・次年度の構想

直接話せなくても、接触できなくても、子ども同士がつながっていると実感できるような学級づくりのための指導や支援について、タブレットも効果的に活用しながら研究していきたい。